

平成25年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	独立行政法人国立美術館運営費交付金に必要な経費	担当部局庁	文化庁	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成13年度・なし	担当課室	長官官房政策課	政策課長 清水 明		
会計区分	一般会計	政策・施策名	XⅢ 文化による心豊かな社会の実現 XⅢ-1 芸術文化の振興			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	独立行政法人国立美術館法 第3条	関係する計画、 通知等	中期目標、中期計画、業務方法書			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国立美術館は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を設置し、それぞれの美術館の理念、目的に基づいた調査結果や研究成果を基に、多様な鑑賞機会の提供としての展示事業や教育普及・研修事業、美術(映画を含む。)に関する作品その他の資料の収集・保管・修理等の事業を有機的・体系的に行う。					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他					
予算額・執行額 (単位:百万円)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
	当初予算	5,859	5,973	7,784	7,546	8,324
	補正予算	-	-	△ 83	-	
	繰越し等	-	-	-	-	
	計	5,859	5,973	7,701	7,546	8,324
	執行額	5,859	5,973	7,701		
執行率(%)	100.0%	100.0%	100.0%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標(中期目標) ※数値で定量的に示される指標 平成22年度:第2期中期目標期間 平成23・24年度:第3期中期目標期間	単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (年度)
	○美術振興の中心的拠点としての多彩な活動展開 ・多様な鑑賞機会の提供など ・国民の美的感性の育成	成果実績	・多様な鑑賞機会の提供など 【所蔵作品展(目標値)】 平成22年度:展示替回数22回、開催日数1,166日、入館者数1,051,827人(823,000人) 平成23年度:展示替回数19回、開催日数1,200日、入館者数864,514人(689,000人) 平成24年度:展示替回数21回、開催日数1,084日、入館者数777,106人(697,000人) 【企画展(目標値)】 平成22年度:開催回数41回、開催日数1,623日、入館者数3,450,921人(2,196,400人) 平成23年度:開催回数36回、開催日数1,849日、入館者数2,566,205人(1,926,600人) 平成24年度:開催回数38回、開催日数1,699日、入館者数2,559,604(2,295,000人) ・国民の美的感性の育成 【幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティストトーク等)】 平成22年度:実施回数667回、参加者数合計41,183人 平成23年度:実施回数671回、参加者数合計51,653人 平成24年度:実施回数675回、参加者数合計74,220人			
○ナショナルコレクションの形成・継承 ・体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の充実を図る	成果実績	【美術作品の収集】 平成22年度:購入点数286点、寄贈点数386点、 平成23年度:購入点数674点、寄贈点数1,213点、 平成24年度:購入点数311点、寄贈点数1,451点 【映画フィルムの収集】 平成22年度:購入本数413本、寄贈本数852本、 平成23年度:購入本数291本、寄贈本数1,479本 平成24年度:購入本数247本、寄贈本数1,523本				

	<p>○美術活動全体の全体の活性化に寄与する。 ・国内の公立美術館への所蔵作品の貸与等に可能な限り取り組む。 ・所蔵作品等に関する調査研究の成果を多様な方法により積極的に公表する</p>	<p>成果実績</p>	<p>【作品の貸与】 平成22年度：貸出件数189件、貸出点数1,318点、 平成23年度：貸出件数174件、貸出点数1,577点、 平成24年度：貸出件数180件、貸出点数1,305点</p> <p>【映画フィルム等の貸与】(東京国立近代美術館フィルムセンター) 平成22年度：貸出件数71件、貸出点数181点、 平成23年度：貸出件数80件、貸出点数168点、 平成24年度：貸出件数100件、貸出点数272点</p> <p>【研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等発表、雑誌等論文掲載での発信】 平成22年度：展覧会図録36件、研究紀要3件、館ニュース36件、所蔵品目録1件、パンフレット・ガイド等18件、その他9件、学会等発表48件、雑誌等論文掲載53件 平成23年度：展覧会図録28件、研究紀要3件、館ニュース37件、所蔵品目録2件、パンフレット・ガイド等16件、その他9件、学会等発表61件、雑誌等論文掲載79件 平成24年度：展覧会図録28件、研究紀要3件、館ニュース32件、所蔵品目録5件、パンフレット・ガイド等19件、その他12件、学会等発表68件、雑誌等論文掲載114件</p>				
		<p>達成度</p>	<p>%</p>	<p>100%</p>			
<p>活動指標</p>			<p>単位</p>	<p>22年度</p>	<p>23年度</p>	<p>24年度</p>	<p>25年度活動見込</p>
			<p>【所蔵作品展について】 東京国立近代美術館：本館では近代美術の流れが概観できるように展示し、工芸館では工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を行っている。 24年度は、指名によるプロポーザルを経て建築家、西澤徹夫氏を選出し、10年ぶりに所蔵品ギャラリーをリニューアルし、特集展示の拡充、解説の拡充、導線の整理、多言語化対応及び休憩スペースの拡充を行った。「美術にぶるっ！」展第1部という変則的な運用を行った10月から1月までの会期を終え、25年1月から、所蔵作品展「MOMATコレクション」を開始した。</p> <p>京都国立近代美術館：24年度も引き続き、特定のテーマに沿った特集展示や企画展に関連した小企画を所蔵作品展として開催した。</p> <p>国立西洋美術館：松方コレクションを中心に、約200点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し、西洋美術の流れが概観できる展示とともに、素描・版画コレクションの多様な側面を紹介する小企画を行った。 24年度は、広報に関し、「Googleアートプロジェクト」に参加し、同サイトを通じて所蔵品データの公開を開始するとともに、常設展への関心を高めることを目指して館公式facebookページの公開を開始した。</p> <p>国立国際美術館：我が国と世界の現代美術の新しい動向をわかりやすく展示するよう努めた。また、これまで展示する機会がなかった作品についてできる限り展示を行うとともに、寄贈作品についても積極的に活用した展示構成を行った。 24年度も引き続き、企画展にあわせ展示内容を見直し、企画展に関連する作家及び作品や、近年収蔵された作品による展示構成とした。</p> <p>【企画展について】主な企画展(海外の主要美術館との連携による企画展、国際的に評価されている作家の企画展等) 平成22年度 開催回数：41回、入館者数：3,450,921人 平成23年度 開催回数：36回、入館者数：2,566,205人 平成24年度 開催回数：38回、入館者数：2,559,604人 ・5館共同企画展「『陰影礼讃—国立美術館コレクションによる』(平成22年9～10月)</p> <p>東京国立近代美術館：「パウル・クレー—おわらないアトリエ」(平成23年5月～7月)、「生誕100年 ジャクソン・ポロック展」(平成24年2月～5月)</p> <p>京都国立近代美術館：「ローマ追想—19世紀写真と旅」(平成22年5月～6月)、「視覚の実験室 ホモイ=ナジ／イン・モーション」(平成23年7月～9月)、「KATAGAMI Style—もうひとつのジャポニスム」(平成24年7月～8月)</p>				

活動指標及び活動実績
(アウトプット)

○美術振興の中心的拠点としての多彩な活動展開
・常設展(所蔵作品展)は、各館の特色を十分に発揮したものとす
・企画展は、研究成果に基づくとともに、海外の主要美術館との連携等に留意して実施する。目標開催回数：第2期中期目標期間(平成18～22年度)は25～31回、第3期中期目標期間(平成23～27年度)は23～30回とする。
・幅広い学習機会を提供し、年間の平均参加者数が前期中期目標期間の年間平均を上回るよう参加者数の増加に取り組む。第1期中期目標期間(平成13年度～17年度)年間平均参加者数：15,307人
第2期中期目標期間(平成18年度～22年度)年間平均参加者数：44,847人

活動実績
平成21、22年度：当初見込み(第1期平均)
平成23年度：当初見込み(第2期平均)

国立西洋美術館：「ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネッサンスからバロックまで」(平成22年6月～9月)、「ブラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」(平成23年10月～平成24年1月)、「ベルリン国立美術館展 学べるヨーロッパ美術の400年」(平成24年6月～9月)

国立国際美術館：「ルノワール—伝統と革新」(平成22年4月～6月)、「アンリ・サラ」(平成23年10月～12月)、「エル・グレコ展」(平成24年10月～12月)

国立新美術館：「オルセー美術館展2010「ポスト印象派」」(平成22年5月～8月)、「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション」(平成23年6月～9月)、「セザンヌ—パリとプロヴァンス」(平成24年3月～6月)

【美術館における教育普及事業】
美術館における教育普及事業の重要性に鑑み、調査研究の成果に基づき、展覧会にあわせた講演会やシンポジウム等、美術の理解の促進・普及を目的とした取組を実施している。

①幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等)

平成22年度 実施回数：667回、参加者数合計：

41,183人

平成23年度 実施回数：671回、参加者数合計：

51,653人

平成24年度 実施回数：675回、参加者数合計：

74,220人

②ボランティアによる教育普及事業

平成22年度 ボランティア登録者数：240人

ボランティア参加者数：1,756人

事業参加者数：9,777人

平成23年度 ボランティア登録者数：252人

ボランティア参加者数：1,528人

事業参加者数：12,385人

平成24年度 ボランティア登録者数：279人

ボランティア参加者数：1,484人

事業参加者数：11,108人

東京国立近代美術館：所蔵作品展内で作家が自作について語る「アーティスト・トーク」(平成17年度から)や同じく所蔵作品展内で特定のテーマに基づき研究員が語る「キュレーター・トーク」(平成18年度から)等を継続的に実施している。また、開館60周年を記念して実施した「だれでもMOMAT」では、子どもから大人まで、誰もが当館のコレクションに親しめることをコンセプトに5つのプログラムを開催した。

京都国立近代美術館：美術家教育学会、鑑賞教育研究プロジェクトとの共催により「2010美術科教育学会地区研究会(フォーラムin京都)美術鑑賞の問題—みる・つくる、そして状況—」(平成22年12月)などを行っている。

平成24年度は、学校との連携として、毎年京都市で夏休みに行われている小学校教員の教科別指導講座のうち、図画工作の会場館となり、京都市教育委員会の担当者と協力し、講座実現に向けて取り組んだ。

国立西洋美術館：「ファン・デー」においては、常設展に関連するプログラムに加え、建築に関連したツアーやトーク、版画のデモンストレーションなどを行っている。

平成24年度は、「ファン・ウィズ・コレクション」と「ファン・デー」の2つのプログラムを、企画展「手の痕跡—国立西洋美術館所蔵作品を中心としたロダンとブルデルの彫刻と素描」と連携させるという初めての試みによって、来館者に当館の彫刻作品を楽しむ多様な視点と数多くの機会を提供した。

国立国際美術館：美術館の活用法や子供による鑑賞の取組についての情報交換の場として「先生のための鑑賞ミーティング」を、平成23年度に引き続き、平成24年度も開催した。また、平成24年度は「写真の誘惑—視線の行方」等のシンポジウムを開催した。

国立新美術館：平成23年度は、開館5周年を機に、ワークショップを記録し、平成19年3月～23年2月までの5年間に開催した29回のアーティスト・ワークショップの記録集を発行した。また、平成24年度は、「セザンヌ」展、「大エルミターージュ美術館展」、「具体」展ではシンポジウムを企画し、展覧会の内容をより深く検証するためのイベントの開催に積極的に取り組んだ。

所蔵作品展(展示)目標入館者数(701,500人)
企画展(企画上映)目標入館者数(2,167,000人)

	<p>○ナショナルコレクションの形成・継承</p> <p>・以下に掲げる各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバラスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。</p> <p>1) 東京国立近代美術館: 美術・工芸に関しては近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるよう収集する。映画フィルム等に関しては、残存するフィルムの収集に努める。</p> <p>2) 京都国立近代美術館: 京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置く。</p> <p>3) 国立西洋美術館: 松方コレクションを中心とした近代フランス美術等を収集する。</p> <p>4) 国立国際美術館: 1945年以降の国内外の先端的な美術を中心に体系的に収集する。</p>	<p>活動実績 平成21、 22年度: 当初見込み(第1期平均) 平成23年度: 当初見込み(第3期平均)</p>	<p>1) 東京国立近代美術館: 下村観山《唐茄子畑》(22年度)、ジョルジュ・ブラック《女のトルソ》(22年度)、マリアン・ネ・プラント《ティーセット》(22年度)、狩野芳崖の代表作《仁王捉鬼図》(23年度)、ジョアン・ミロ《絵画詩(おお! あの人やっちゃったのね)》(24年度)、加守田章二《曲線彫文壺》などを収集した。フィルムセンターでは、ピネガー・シンドロームや褪色の危険性が高い1950年代から60年代にかけての作品について、1954年に製作を再開した日活の初期作品(22年度)、中村登監督作品(23年度)、佐藤純弥、降旗康男、山下耕作監督らの初期作品となる東映作品(24年度)等を収集した。</p> <p>2) 京都国立近代美術館: ハンナ・ヘッヒの代表作《Angst(不安)》(22年度)などを収集した。平成23年度は「川西英コレクション」の収集を完成させた。平成24年度は青木繁《女の顔》などを収集した。</p> <p>3) 国立西洋美術館: パニーニ・ジョヴァンニ・パオロ・パニーニ《古代建築と彫刻のカプリッチョ》(22年度)、ヴィンチェンツォ・カテーナ《聖母子と幼い洗礼者聖ヨハネ》(23年度)、ポール・セザンヌ《ポントワーズの橋と堰》(24年度)などを収集した。</p> <p>4) 国立国際美術館: ミハエル・ボレマンズ《Automat(3)》(22年度)、アンディ・ウォーホルの晩年の作品や、奈良美智の初期の絵画(23年度)、ジャン・フォートリエ《人質の頭部》(24年度)などを収集した。</p>	—
<p>○美術活動全体の全体の活性化に寄与する。</p> <p>・所蔵作品について、その保存状態を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館等に対して貸与等を行う。</p> <p>・所蔵画作品等に関する調査研究成果を研究紀要、インターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>		<p>活動実績 平成21、 22年度: 当初見込み(第1期平均) 平成23年度: 当初見込み(第4期平均)</p>	<p>貸出先における展覧会計画の意義にも留意しつつ、自館における展示計画との調整や作品状況のチェック等を行った上で、所蔵作品の貸与等を実施した。</p> <p>【主な貸与先】</p> <p>東京国立近代美術館: 古賀春江《海》他48点を「新しい神話が始まる。古賀春江の全貌」展(平成22年度/石橋美術館、神奈川県立近代美術館)などに貸与した。また東日本大震災の被災館への支援の一環として、作品輸送費(保険料含む)を負担し、萬鉄五郎「裸体美人」他4点を(平成23年度/岩手県立美術館)貸与した。平成23年度に引き続き、平成24年度も震災復興支援として、横山大観《生々流転》(重要文化財)を、「二年後。自然と芸術、そしてレクイエム」展(茨城県近代美術館)特別貸与した。</p> <p>京都国立近代美術館: モンドリアンの作品をローマで開催された展覧会に貸与した(平成23年度)。イタリアのローマ国立近代美術館で、当館ほかの主催して開催した「近代日本画と工芸の流れ 1968-1945」展に、所蔵作品日本画13点及び工芸21点を出品した(平成24年度)。</p> <p>国立西洋美術館: 三菱一号館美術館の開館記念展「マネとモダン・パリ」(平成22年度)、宇都宮美術館の「カミーユ・ピサロと印象派」展(平成23年度)、パイエラ美術館(スイス)の「ドガの後期作品」展(平成24年度)などに主要絵画作品を貸与した。</p> <p>国立国際美術館: リュック・タイムス《教会》を「Luc Tuymans」展(平成21~22年度/サンフランシスコ近代美術館、シカゴ現代美術館)などに貸与した。</p> <p>「The Steins Collect: Matisse, Picasso, and the Parisian Avant-Garde」展(平成23年度/サンフランシスコ近代美術館)、「TOKYO 1955-1970-A NEW AVANT」展(平成24年度/ニューヨーク近代美術館)などに依頼に応じて積極的に作品を貸与した。</p> <p>【所蔵作品等に関する調査研究成果の発信】</p> <p>所蔵作品等に関する調査研究成果について、継続的に、国立美術館各館における各展覧会の展示構成や図録等に反映されるとともに、学会等での発表や学術雑誌等での論文発表として発信されている。あわせて、所蔵作品等に関するセミナーやシンポジウムの開催等を行っている。</p> <p>各館の主な取り組みは下記のとおりである。</p> <p>東京国立近代美術館: 東京国立近代美術館本館では、「ARLIS at 40-美術図書館協会(ARLIS)の活動の足跡とその出版物」をアート・ドキュメンテーション学会(平成22年10月)で発表した。「震災復興とMLA」を総務省 知のデジタルアーカイブに関する研究会(第3回)(平成23年6月)で発表した。「鬚光《眼のある風景》をめぐって」を東京文化財研究所(平成25年2月)で発表した。</p> <p>東京国立近代美術館工芸館では、「大河内正敏と奥田誠一陶磁器研究会/彩壺会/東洋陶磁研究所-大正期を中心に-」を東洋陶磁学会第39回大会(平成23年11月)で発表した。「“Japanese-ness” in the Design Works for the Tokyo Olympics: Design Project 1964」をAIGA design educators conference(平成24年12月)で発表した。東京国立近代美術館フィルムセンターでは、「失われた脚本・台本を求めて~文化リサイクルの意義」を脚本アーカイブ・シンポジウム(平成24年2月)で発表した。「映画保存の実践的課題-東京国立近代美術館フィルムセンターにおける映画フィルム収集のためのプロセス」を記録映画アーカイブ・プロジェクト第9回ワークショップで(平成25年1月)発表した。</p>	—

				<p>京都国立近代美術館:関西で初めて開催された明治美術学会(平成22年7月)で、「関西の近代美術事情 京都」を発表した。シンポジウム『美術フォーラム21』(平成23年11月)で「竹久夢二」を発表した。シンポジウム「KATAGAMI Style もうひとつのジャポニスム」(平成24年5月)で「ドイツにおける型紙の受容とモダン・デザインの誕生」を発表した。</p> <p>国立西洋美術館:イタリアで開催された「Conferenza su ricerche vasariane a Camaldoli」(平成23年9月)で「Una tavola di “Cristo nell’orto” eseguita da Giorgio Vasari, conservata a Tokyo」を発表した。文化資源学会第2回博士号取得者研究発表会(平成24年12月)で「ナショナル・ポートレート・ギャラリーにおける思想・歴史」を発表した。</p> <p>国立国際美術館:オーストラリアで開催された「Museums Australia Conference」(平成23年11月)で「Alternating Currents (Curating the Future – A Curatorial Symposium)」を発表した。台湾で開催された「Curators’ Incubator Program at Hong-gah Museum」(平成24年6月)で「Curatorial Practice」を発表した。</p> <p>国立新美術館:ハーヴァード大学で開催されたシンポジウム(平成23年11月)で「具体」を発表した。「綜観東京国立新美術館之圖書與資訊服務」を『美術論叢』(第87号、台北市立美術館)に発表した(平成24年8月)。</p>
単位当たりコスト	-		算出根拠	-
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由
	独立行政法人国立美術館運営費交付金	7,546 百万円	8,324 百万円	<p>「新しい日本のための優先課題推進枠」1,020百万円 「国立の美術館・博物館・劇場の機能強化に関する提言(平成25年5月17日:自民党文化伝統調査会)」において、専門人材の確保など、ナショナルセンターとしての役割の重要性が求められていることから、更なる機能強化を図るため、必要な経費を平成26年度に要求するため。</p>
計	7,546 百万円	8,324 百万円		

事業所管部局による点検						
		項目	評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	当事業は国立美術館法等に定められた、美術作品の収集・保管、観覧、調査研究等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。美術作品の収集保存、公開活用、美術に関する調査研究事業等については、広く国民のニーズがあり、優先度の高い事業として、ナショナルセンターとしての独立行政法人国立美術館が実施すべき事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		—			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		—			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	支出先の選定にあたっては、業務の特殊性を除き、一般競争入札などにより支出先を選定しており、競争性の確保、単位あたりのコスト削減に努めている。また、契約手続にあたって、事業経費の費目・使途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っている。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		○			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○			
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		—				
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	我が国美術館の中核的役割を果たすナショナルセンターとして、年度計画どおり事業が実施されており、研究成果を論文や学会で発表しており、着実に成果をあげていると認められる。		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○			
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度の入館者数が、目標入館者数を上回っていることは評価できる。 ・事業の目的に沿った事業運営がなされていると認められる。 ・我が国の美術館のナショナルセンターとして、コレクションの充実に努めていることは評価できる。 ・引き続き、事業運営の効率化を進めるとともに、民間からの寄付、自己収入等による、外部資金の拡大などの積極的な確保が求められ、より計画的な事業運営の推進を実施していく必要がある。 					
外部有識者の所見						
外部有識者による点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業内容の改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業評価の観点：本事業は、独立行政法人に対する運営費交付金の交付事業であり、事業の効率化の観点から検証を行った。 2. 所見：これまでも業務運営の効率化に努めてきたところであるが、必要な機能強化を計画的に図りつつ、行政改革推進本部における中間的整理等を踏まえ、より一層の適切かつ効率的な運営に努めるべきである。 					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
縮減	<p>本件については、毎年度、運営費交付金の削減を図り、業務の効率化に努めてきたところである。行政改革推進本部における中間的整理等を踏まえ、より一層の効率的な運営に努めるべく、平成26年度概算要求に▲51百万円反映した。</p> <p>「国立の美術館・博物館・劇場の機能強化に関する提言(平成25年5月17日：自民党文化伝統調査会)」において、専門人材の確保など、ナショナルセンターとしての役割の重要性が求められていることから、更なる機能強化を図ることとする。</p>					
備考						
<p>関係する計画、通知等については以下を参照。</p> <p>○中期目標 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/dokuritu/chuuki/bijyutu.htm</p> <p>○中期計画 http://www.artmuseums.go.jp/04/0403-3.pdf(国立美術館HPヘリンク)</p> <p>○業務方法書 http://www.artmuseums.go.jp/04/0401.pdf(国立美術館HPヘリンク)</p>						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	0466	平成23年	0384	平成24年	0407

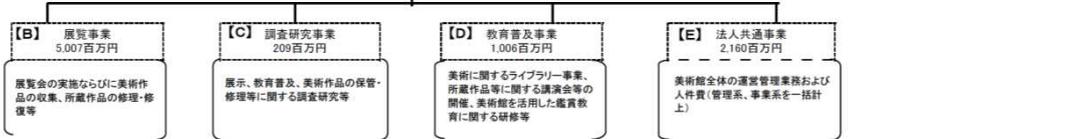
文化庁
7,701百万円

独立行政法人国立美術館に対し、その業務の財源に充てるために必要な金額を交付する。

〔交付〕

〔A〕 独立行政法人国立美術館
8,382百万円(運営費交付金部門)

※〔A〕には、当該年度運営費交付金の執行分のほか、自己収入及び前年度以前の運営費交付金債務からの執行分も含む。



〔B〕 展覧事業



〔C〕 調査研究事業



〔D〕 教育普及事業



〔E〕 法人共通事業



資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位: 百万
円)

A.独立行政法人国立美術館			E.法人共通事業		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費 (物件費)	所蔵品購入、光熱水料、会場管理業務等 (内訳はB～Dを参照)	6,222	管理費(物件費)	土地借料、建物管理業務、光熱水料、警備 業務等	1,160
管理費 (物件費)	土地借料、建物管理業務、光熱水料等	1,160	事業費(人件費)	事業系人件費	717
事業費 (人件費)	事業系人件費	717	管理費(人件費)	管理系人件費	283
管理費 (人件費)	管理系人件費	283			
計		8,382	計		2,160
B.展覧事業			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費(物件費)	所蔵品購入、光熱水料、建物管理業務等	5,007			
計		5,007	計		0
C.調査研究事業			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費(物件費)	ライブラリ閲覧サービス業務、光熱水料、印 刷製本費等	209			
計		209	計		0
D.教育普及事業			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費(物件費)	光熱水料、ライブラリー閲覧サービス業務 等	1,006			
計		1,006	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

B-1.株式会社レンブラント			C-1.株式会社F-Power		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館の美術作品の購入	806	物品調達	東京国立近代美術館の電気使用料	9
計		806	計		9
B-2.株式会社ミヤケファインアート			C-2.社会福祉法人埼玉福祉会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	国立国際美術館の美術作品の購入	380	役務	東京国立近代美術館の「アートライブラリ」閲覧サービス等業務	5
計		380	計		5
B-3.鹿島建物総合管理株式会社			C-3.株式会社美術出版社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務	国立新美術館の管理運営・自主企画展 看視・検札・発券・図録販売業務	271	役務	東京国立近代美術館の「開館60周年 記念「美術家たちの素懐」製作	3
計		271	計		3
B-4.個人			C-4.野崎印刷機器株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	東京国立近代美術館の美術作品の購入	210	役務	東京国立近代美術館60年史の製作	3
計		210	計		3
B-5.株式会社ギャラリーたき			C-5.東京電力株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	京都国立近代美術館の美術作品の購入	189	物品調達	国立西洋美術館の電気使用料	3
計		189	計		3
B-6.児玉画廊			C-6.東京電力株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	国立国際美術館の美術作品の購入	163	物品調達	東京国立近代美術館の電気使用料	3
計		163	計		3
B-7.Edouard Malingue Gallery			C-7.株式会社アイメックスファインアート		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館の美術作品の購入	113	役務	国立西洋美術館の研究紀要印刷業務	2
計		113	計		2
B-8.株式会社協栄			C-8.東京ガス株式会社		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
役務	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場 における会場管理業務等	98	物品調達	東京国立近代美術館のガス使用料	2
計		98	計		2
B-9.東京電力株式会社			C-9.株式会社文化財保存計画協会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の電気使用料	95	役務	国立西洋美術館の保存管理計画策定 支援業務	2
計		95	計		2
B-10.個人			C-10.株式会社コギト		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
物品調達	京都国立近代美術館の美術作品の購入	85	役務	国立西洋美術館館報の印刷	2
計		85	計		2

D-1.鹿島建物総合管理株式会社			E-1.独立行政法人国立大学法人財務・経営センター		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館の管理運営・保存建物監視業務	221	賃貸借	国立新美術館の土地借料	343
計		221	計		343
D-2.東京電力株式会社			E-2.鹿島建物総合管理株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の電気使用料	94	役務	東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理・運営業務	102
計		94	計		102
D-3.東京ガス株式会社			E-3.鹿島建物総合管理株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館のガス使用料	45	役務	東京国立近代美術館フィルムセンターの管理・運営業務	86
計		45	計		86
D-4.社会福祉法人埼玉福祉会			E-4.鹿島建設株式会社東京建築支店		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	国立新美術館のアートライブラリー閲覧受付等業務	18	工事	東京国立近代美術館本館レストランの改修工事	41
計		18	計		41
D-5.東京都水道局			E-5.東京電力株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立新美術館の上下水道使用料	15	物品調達	国立西洋美術館の電気使用料	35
計		15	計		35
D-6.株式会社インターネットイニシアティブ			E-6.株式会社協栄		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	独立行政法人国立美術館インターネット接続・拠点間接続回線等提供業務	15	役務	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場における会場管理業務等	27
計		15	計		27
D-7.東京電力株式会社			E-7.東京都東部公園緑地事務所		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館の電気使用料	13	賃貸借	国立西洋美術館の土地借料	25
計		13	計		25
D-8.東京都東部公園緑地事務所			E-8.大阪市教育委員会		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
賃貸借	国立西洋美術館の土地借料	12	賃貸借	国立国際美術館の土地借料	24
計		12	計		24
D-9.株式会社F-Power			E-9.高砂熱学工業株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	東京国立近代美術館の電気使用料	9	役務	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の空調・換気・計装設備保守	23
計		9	計		23
D-10.東京ガス株式会社			E-10.東京ガス株式会社		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
物品調達	国立西洋美術館のガス使用料	8	物品調達	国立西洋美術館のガス使用料	22
計		8	計		22

支出先上位10者リスト

B. 展覧事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社レプラント	国立西洋美術館の美術作品の購入	806	随意契約	—
2	株式会社ミヤケファインアート	国立国際美術館の美術作品の購入	380	随意契約	—
3	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館の管理運営・自主企画展看視・発券・検札・図録販売業務	271	2	94.3%
4	個人	東京国立近代美術館の美術作品の購入	210	随意契約	—
5	株式会社ギャラリーたき	京都国立近代美術館の美術作品の購入	189	随意契約	—
6	児玉画廊	国立国際美術館の美術作品の購入	163	随意契約	—
7	Edouard Malingue Gallery	国立西洋美術館の美術作品の購入	113	随意契約	—
8	株式会社協栄	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場管理業務	98	3	93.0%
9	東京電力株式会社	国立新美術館の電気使用料	95	随意契約	—
10	個人	京都国立近代美術館の美術作品の購入	85	随意契約	—

C. 調査研究事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社F-Power	東京国立近代美術館の電気使用料	9	随意契約	—
2	社会福祉法人埼玉福祉会	東京国立近代美術館のアートライブラリー閲覧サービス等業務	5	3	95.5%
3	株式会社美術出版社	東京国立近代美術館の「開館60周年記念「美術家たちの素懐」」製作	3	企画競争	—
4	野崎印刷機器株式会社	東京国立近代美術館60年史の製作	3	3	87.6%
5	東京電力株式会社	国立西洋美術館の電気使用料	3	随意契約	—
6	東京電力株式会社	東京国立近代美術館の電気使用料	3	随意契約	—
7	株式会社アイメックスファインアート	国立西洋美術館の研究紀要印刷業務	2	随意契約	—
8	東京ガス株式会社	東京国立近代美術館のガス使用料	2	随意契約	—
9	株式会社文化財保存計画協会	国立西洋美術館の保存管理計画策定支援業務	2	随意契約	—
10	株式会社コギト	国立西洋美術館館報の印刷	2	随意契約	—

D. 教育普及事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	鹿島建物総合管理株式会社	国立新美術館の管理運営・保存建物監視業務	221	2	94.5%
2	東京電力株式会社	国立新美術館の電気使用料	94	随意契約	—
3	東京ガス株式会社	国立新美術館のガス使用料	45	随意契約	—
4	社会福祉法人埼玉福祉会	国立新美術館のアートライブラリー閲覧受付等管理業務	18	2	93.8%
5	東京都水道局	国立新美術館の上下水道使用料	15	随意契約	—
6	株式会社インターネットイニシアティブ	独立行政法人国立美術館インターネット接続・拠点間接続回線等提供業務	15	随意契約	—
7	東京電力株式会社	国立西洋美術館の電気使用料	13	随意契約	—
8	東京都東部公園緑地事務所	国立西洋美術館の土地借料	12	随意契約	—
9	株式会社F-Power	東京国立近代美術館の電気使用料	9	随意契約	—
10	東京ガス株式会社	国立西洋美術館のガス使用料	8	随意契約	—

E. 法人共通事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	独立行政法人国立大学財務・経営センター	国立新美術館の土地借料	343	随意契約	—
2	鹿島建物総合管理株式会社	東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理・運営業務	102	1	92.0%
3	鹿島建物総合管理株式会社	東京国立近代美術館フィルムセンターの管理・運営業務	86	1	97.9%
4	鹿島建設株式会社東京建築支店	東京国立近代美術館本館レストランの改修工事	41	1	99.0%
5	東京電力株式会社	国立西洋美術館の電気使用料	35	随意契約	—
6	株式会社協栄	国立西洋美術館の所蔵作品展示会場の管理業務等	27	3	93.0%
7	東京都東部公園緑地事務所	国立西洋美術館の土地借料	25	随意契約	—
8	大阪市教育委員会	国立国際美術館の土地借料	24	随意契約	—
9	高砂熱学工業株式会社	東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の空調・換気・計装設備保守	23	1	98.8%
10	東京ガス株式会社	国立西洋美術館のガス使用料	22	随意契約	—